



私のひとこと

いま再び、「大砲よりバター」へ

泉 伸忠

第2次世界大戦後、各国は厭戦気分から、福祉国家をめざし、ケインズ経済政策を採用して、いわゆる「大きな政府」を形成しました。

しかし、すぐに東西冷戦が激化して、「大砲かバターか」が問われながら、軍事費が増強されました。福祉国家として組んだ”大きな予算”から、軍事費を掠め取ることは、容易でした。

さらに大きな予算を、自ら食べ物にして、福祉にもバラ撒き、共助のコミュニティを壊してしまいました。

そして、行き詰った各国政府は、今度は新自由主義を採用し、福祉や教育を民間に委ね、「小さな政府」をめざしていますが、その結果、“勝ち組”と“負け組”を生み出して治安の悪化を招き、貧困対策と警察（さらには軍隊）の増強に追われています。

しかも貧困（景気）対策は、自らが否定したケインズ経済政策による公共事業、というお粗末さです。各国政府は、いい加減に目覚めなければならない時にきている、と思われます。

(東灘区田中町)



「原爆孤児」テーマに講演会

「戦後をどう生き抜いたか」が鍵



著書を手にも熱く語り合う平井さん

「原爆孤児『しあわせのうた』が聞こえる」と題した講演会が11月7日(土)、神戸・元町の兵庫県保険医協会会議室で行われました。主催は、非核の政府を求める兵庫の会で、講師は、現役の中学校教諭であり、子どもと教科書大阪ネット21の事務局長でもある平井美津子さん。

平井さんは今年、同名の著書を出したばかりですが、学生時代に広島への研修旅行で、「被爆体験だけを原爆体験と思っていたが、生き残った人、とりわけ原爆孤児たちが戦後をどう生き抜いたか、それこそが重要」と学んだと言います。これを原点に、丹念な聞き取りを重ね、「語り手が戦後を生き、語る(語れる)場所(時空間)に辿り着くまでが戦争(原爆)体験」「再び戦争孤児をつくらぬ、核廃絶といった不戦反戦反核という理念に引き継がれるとき、本当の意味で戦争体験が継承されたと言える」と強調。参加者達と熱く交流しました。

来年1月11日（月、休）に特別企画 川島龍一・県医師会長が異色の講演 「医療から見た昭和史の真実」にご期待を



「医療から見た日本昭和史の真実」と題した異色の講演会が、来年1月11日（月、休）午後2時から東灘区民センターで開催されます。主催は九条の会.ひがしなだ。医療、福祉関係の団体などから後援、協賛の申し出が相次ぎ、各種の会合でも「凄い企画」と紹介されるなど、今から話題となっています。

講師は、兵庫県医師会の川島龍一会長。東灘区深江南町の川島クリニック（外科、整形外科）の院長でもあります。

もともとは、「昭和史にみる医療の変遷」と題して、医療・福祉関係者向けの講演で好評だったのですが、医療問題を基礎としつつも、戦争・貧困・差別・公害・人権、そして憲法といった、社会性に富んだ切り口が鋭く、斬新で話題に。「一般社会人向けにも十分可能」と、推薦・仲介してくれる人があって、九条の会の特別企画に至ったものです。

したがって、参加費などは頂かず、会場費、資料代などは、すべてカンパ（1口500円）とボランティアで賄う考えです。皆様のご協力をお願いいたします。



弁護士深草徹の
「ここがポイント」



「違憲」と「非立憲」

憲法に違反することを、「違憲」といいます。

「違憲」の立法や「違憲」の行為が認められないことは、憲法98条1項に、「この憲法は、国の最高法規であって、その条規に反する法律、命令、詔勅及び国務に関するその他の行為の全部又は一部は、その効力を有しない」と定められているとおります。

一方、憲法を軽視したり、憲法の精神をないがしろにしたりすることを、「非立憲」といいます。「非立憲」も、憲法99条の「天皇又は摂政及び国務大臣、国会議員、裁判官その他の公務員は、この憲法を尊重し擁護する義務を負ふ」との規定により、当然許されません。

国民世論、野党の活発な活動、国会における熟議、自由な報道、政府部内におけるチェック・アンド・バランス、地方自治……。これらは「非立憲」の政治を防ぐ手立てであり、これらを悉く無視し、破壊することは「非立憲」です。

ですから、安倍政治は「非立憲」政治。断じて許してはなりません。

（九条の会.ひがしなだ共同代表）

平和随想

九条は、かけがえのない拠り所

岩村 義雄

ヒロシマ、ナガサキ、フクシマは呻いています。なぜですか。人間がもつ罪が人間性を失う時に、起きた出来事だからです。罪とは、人権をないがしろにする抑圧です。

戦争がないなら平和ですか。否。貧困、病気、差別があり、周囲が親身になって考えない空気がある限り、平和とは言えません。

米国はピカドン、福島第一原発の製作者として「悪」です。しかし、核を二度と用いてはならないと諸国に平和を主張します。偽善です。核兵器を使用したことを謝罪せずに、非核は実現しません。すべてを許すのが宗教ではありません。いのちを脅かす狡猾な企みを前に慈悲ではなく、否定の論理、「悔い改め」が必要です。食欲のあまり人類を危機にいたらせる潮流が押し寄せています。懲りない勢力には抗わねばなりません。もう行動できなくなった年配、病、認知症であったとしても、憲法九条はかけがえのない拠り所なのです。石が叫ぶ前に「悪から遠ざかり、善を行い、平和を願って、これを追い求めよ」（聖書）と発したいものです。

〈牧師、みんなで考える 9 条・明舞の会世話人代表、憲法 9 条をノーベル平和賞に推す神戸の会総主事〉



朝日新聞 10月15日付

九条の会訪問記（その 46） 地域の主軸で力量発揮

立花 9 条の会 戦争法反対の共同行動



九条の会尼崎ネットワークには、30にも及ぶ9条関連の会が名を連ねていますが、地域にしっかり根を張り、その主軸となって奮闘している会として名前があがるのは、まず立花9条の会でしょう。

発足は2006年12月。産婦人科医の土肥 定さんを世話人代表に毎月、世話人・事務局会議を開催して、署名・宣伝にも熱心に取り組み、ニュースも定期的に発行しています。

「戦争法案」強行の緊迫した情勢下で、今夏には「戦争法案反対の一点で、可能な共同行動を」と、JR立花駅周辺の20団体と個人に呼びかけ、8月8日に「STOP戦争法案立花連絡会」を旗揚げ。毎週火曜日に立花駅の南と北で交互に行う宣伝・署名行動を、成功へと導きました。

発足9周年を記念して11月22日、「平和を守る文化のつどい」を開催。世話人4人、事務局はダブルなしの5人で構成し、学習会や「結成記念のつどい」でのカンパと「自主募金」などで、立派に賄っています。

徳島で頑張ってます

横山 良

昨年3月末をもって、甲南大学を定年退職し、家のある徳島に戻ってまいりました。神戸大学を含めて、17年半の単身赴任生活でした。

神戸大学時代には「神戸大学教職員九条の会」および「灘区九条の会」に顔を出していました。甲南大学時代には、「九条の会.ひがしなだ」にも参加するようになりました。なんとか甲南大にも九条の会を作りたいと考えていたのですが、定年間近の慌しさに紛れて果たせなかったことは、返す返すも残念です。徳島に戻ってからも、「九条の会.ひがしなだ」からは、絶えず連絡をいただき、励まされています。

この春からは「徳島革新懇」の代表世話人を務めております。

徳島では、戦争法案が衆議院の安保法制特別委員会で強行採決される直前の7月12日から今日（11月7日）まで、台風で警報の出た一日を除き、毎日「憲法共同センター」による徳島駅前での昼休み街頭宣伝が、続けられております。

私も出張などで不在の時を除き、ほぼ毎日のように短いトークをしております。ざっと数えて90回以上になります。

国民に、戦争法強行成立を忘れさせようとする安倍暴走政権の「愚民政策」に対抗するために、これからも声を上げ続けます。

(元神戸大学・甲南大学教授)

催し物案内

10周年特別企画

日時：2016年1月11日（月・祝）14：00開演（13：30開場）
 場所：東灘区民センター8階第1～第2会議室（JR住吉駅5分）
 講演：「医療から見た昭和史の真実」
 講師：川島龍一・兵庫県医師会会長（川島クリニック院長）
 主催：九条の会.ひがしなだ 史跡・戦跡めぐりの会
 参加費：カンパ制
 連絡先：090・7366・9420（中村）

戦争法廃止！！ストップ日米共同軍事演習

ヤマサクラ69大集会

日時：12月5日（土）13：30～
 会場：伊丹市・昆陽池公園多目的広場
 主催：同実行委員会
 連絡先：072・781・1284

編集後記

★今年、東灘ゆかりの文豪・谷崎潤一郎の没後50年。11月7日のイベントで、本山第二小学校の「細雪の碑」が公開され、倚松庵で「平和なればこそその谷崎文学」を実感（田）

★パソコンが不調で大苦戦。送受信とも通信履歴を全部削除しても直らず、最後にゴミ箱をカラにしてやっと正常に。ゴミ箱にはくれぐれもご留意を（田）

★第3次安倍内閣のアベノミクス第2ステージのスローガンを見て笑ってしまった。

特に「一億総活躍社会」の実現をめざすというスローガンには、あいた口がふさがらない。

労働者派遣法の改悪、社会保障の切り下げ、不十分な子育て支援等々まさに“言うこととやることが違う”典型例ではないだろうか。（N）

